
運命の歯車

r y o

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

運命の齒車

【Nコード】

N8397Z

【作者名】

ryo

【あらすじ】

『領姫よりようひめく』。それは、全てのものが知っている。『領姫の騎士団よりようひめのきしだんく』。それは、『領姫』が創ったモノ。守りたいものを守るために。集うモノは、『領姫』を守りたいと願うもの。「領？あいつは無敵だ…。絶対に、何があるかと手をだしてはいけない…。この世界で…。いや、たとえばどこであるかと、生きたいとねがうのならば。」「領？あの子に手を出すというのならば…。私が赦さない…。」

第一章 逢瀬 第一話 男

「とうとう、か…。」

男はそつと溜め息をついた。

「我が子に継がせるか、滅びるか…。あの子に『運命の女神』うんめいのめがみく』の座を継がせるだけでも重荷になるだろうに…！」

奇怪な事を口走る。

よく見ると男の服装は、見慣れたものではなかった。

着物のようなくつたりしたものの上に長羽織に似たものを着ている。足は何も履いておらず、裸足のままだ。

「それも全てアレのせい…！」

その時だった。

辺り一帯の空気が変わる。

たくさんのモノ達の感情が渦となって、押し寄せてくる。

男は、呟いた。

「…女神が来た。」

男に押し寄せてくる感情の名は、狂喜。
目の前に現れる女は、『運命の女神』。
最高神である自分でさえ、敵わないヒト。
そして…、自分の恋人。

第一章 逢瀬 第二話 女

「…どうしたの？」

「生々ういく…。」

最高神は、『運命の女神』の名を呟く。
不謹慎ながらも、その名を呼ぶことを赦されるのは自分だけということに狂喜する。

「何が、あつたの…？」

狂喜が冷める。
思い出したくもないモノを思い出してしまつ。
あの男のことを。
可愛い我が子に重荷を背負わせることになった原因をつくつた者。
生はほんの少しだが、慌てた。

「教えて…、貴方の口からききたい…。」

『運命の女神』は呟く。
最高神の名を。

「命くみじとく...。」

第一章 逢瀬 第三話 終わりと始まり

「命…？」

何が、あつたの…？

お願いだから、教えて…。」

命のいつもと違う様子に生は、焦っているのだろっ。

桃色の大きな瞳を潤ませている。

命は生のそんな姿を見て、驚いた。

いつもは元気潑潑な彼女が自分の為に、今にも涙をこぼしてしまいそうになっている。

「…生、…話すよ。」

だから、いつもみたいに笑ってくれ…。」

命は生を抱きしめた。

まるで、その存在を確認するかのように…。

「おれは…、負けたよ。」

アイツに。」

そう言った瞬間、生の瞳は大きく見開かれていた。

命は、自嘲気味に嗤う。

「命……。」

生になんと言われるか…。

嫌わないでほしい。

そのためならば、命は何でもするだろう…。

それほどに痛切だった。

だが、次の瞬間言われた言葉は思いも寄らないものだった。

「…ばかでしょ、命って。」

死苦哀しくあいくに負けたのが何？

私達が勝てないのならば、あの子に任せればいい。

あの子を舐めてるわ。

そして、私達は出来ることをやるの。」

今度は、命が瞳を見開く番だった。

「！……。」

それに、と付け足すように言った。

「あの子も心配してる。」

あの子には、『運命>うんめいく』が定めた仲間もいる。

そして、『運命の女神』の座と『最高神』の座を同時に受け継ぐ。
あの子は…、領よりよくは勝つわ。
領を信じなさい。」

命は静かに涙を流した。
そしてもう一度、生を抱きしめた。

第一章 逢瀬 第三話 終わりと始まり（後書き）

初のお気に入り登録！

テンション上がりまくりです！

調子にのってます！

読んで下さって有難うございます！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8397z/>

運命の歯車

2012年1月12日19時48分発行